

「豊かな学び」をつくる授業を求めて

——— 主体的に学ぶ児童の育成 ———

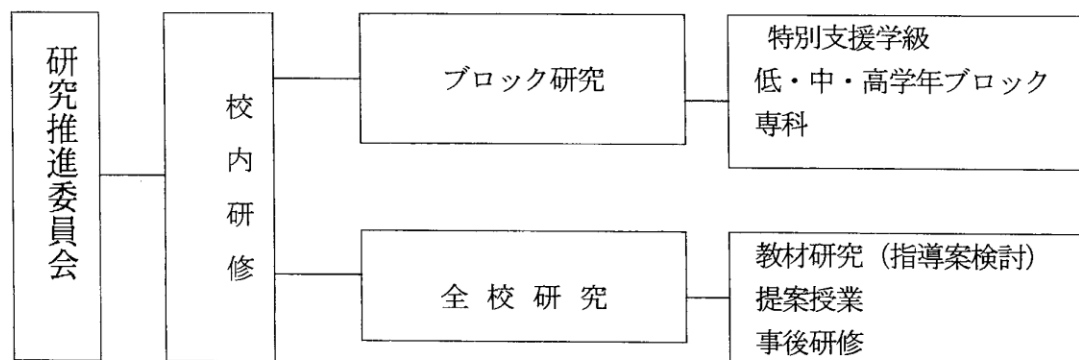
主題設定の理由

本校の教育目標「豊かに学び、共に高め合う児童の育成」を受け、研究主題を“「豊かな学び」をつくる授業を求めて”とする。

私たちは児童の育成にあたって、社会の変化に柔軟に対応し、正しく判断し、行動できる人間、つまり「子ども自らが課題を見つけ、考え、判断し、表現でき、よりよく解決する能力を育む。」ことを重視しなければならない。そのためには、具体的な体験や活動を学習に取り入れ、「分かる・できる」という子どもの実感に重きをおいた問題解決の場を作る必要がある。そして、子ども一人ひとりが獲得した知識や技能が生活の中に生かされ、それが総合的に働くようにしなければならない。そうすることで、感性を豊かに育み、自分なりの見方や考え方をもち、より良い自己を創り出していくものであると考える。このように「確かな学力」をつけることが「生きる力」として、豊かな人間性につながる。

本校では、「豊かな学び」とは、確かな学力・豊かな心・関わる力の三つの観点を柱と捉えており、昨年度も、「豊かな学び」をつくる授業を創造する研究を進めてきた。研究主題に迫るために、児童の活動を重視しながら、学習意欲や関心を促す指導を工夫すること、児童のよさや可能性が生きる支援を工夫すること、また、児童の実態に応じた習熟や発展のあり方などを模索しての授業改善を図ってきた。さらに、ペア学習やグループ学習を通して関わり合う力の育成にも努めてきた。しかし、学び取った知識・技能を活用する能力、積極的に学ぼうとする意欲、さらに探求していこうとする向上心などの面では弱さが残っており、自分の考えを持つことができにくい、分かっているけど説明ができない、などの課題が出された。

そこで、さらに研究主題に迫っていけるよう、昨年度の研究の成果と課題をもとに児童の活動を重視しながら授業改善を図っていきたいと考えている。具体的には、昨年度に引き続き全教職員が授業研究を行い、授業の中では、①児童の思考につなげるための板書・発問・提示物等の工夫、②練り合い活動の活性化についての研究を深めていく。特に全校研では、算数科にしぼり、算数的活動を一層充実させ、基礎的・基本的な知識・技能を確実に身につけさせ、数学的な思考力・表現力を育て、学ぶ意欲を高めさせる指導法の研究を深めていきたい。



※研究推進委員会

- ・構成メンバー・・・・・・・・低・中・高各1名の代表者（教務主任の属する学年ブロックは教務主任が兼ねる。但し、場合によっては教務主任以外の代表者が参加する。）、特別支援教育コーディネーター、教務主任、研究主任、管理職
- ・協議する内容・・・・・・・・校内研修に関わっての企画と提案
- ・開催日・・・・・・・・毎月第1月曜日16：00～（その他必要に応じて）

運営

- ① 研修日……第1・第3・第4水曜日 15：20～16：45
- ② 授業評価表を活用し、授業改善に努める。
- ③ 学期ごとに成果と課題を検証していく。

「豊かな学び」をつくる授業を求める研究の具体化

- ① 児童の思考につなげるための板書・発問・提示物等の工夫を図る。
- ② 練り合い活動の活性化を図る。
- ③ 授業評価や到達度把握検査を通して、学力の実態を捉えると共に、授業研究を通して、教材解釈や指導技術などの力をつけ、日々の授業の質的向上を図る。
- ④ 「読み・書き・計算」を基礎学力と捉え、授業や家庭学習の中で習熟を図る。
- ⑤ 基本的な学習規律を身につけさせると共に、教師は児童に常に目を向け、課題がある子へ寄り添い支援していくことを基本としながら豊かな学習環境作りに努め、学級経営を行う。
- ⑥ 従来の均等分割の少人数指導に加え、課題別や習熟度別等、児童の実態により即した指導形態の工夫を図り、「分かる・楽しい・練り合う授業」を創造していく。